

子ども食堂

皆が笑顔で楽しめる場に

青森で開設セミナー

子どもに無料か低額で食事を提供する「子ども食堂」の開設セミナーが16日、青森市のアピオあおもりで開かれ、参加した約130人が、子どもも大人も笑顔で食事を楽しめる場づくりの大切さを確認した。

全国の子ども食堂を調査・研究している八戸学院大学短期大学の佐藤千恵子教授が、本県の子どもの貧困率が東北で一番高いことを説明。子どもの貧困は、孤食や欠食の原因となることや、学習意欲の低下、自信喪失、無気力など精神面でもマイナスの影響を与えることを指摘し、食の大切さを強調した。



2016年11月、同短大が八戸市で初めて開設した子ども食堂の様子を振り返り、利用者から寄せられた「談笑しながらの夕食はおいしい」との声を紹介しながら「みんなが笑顔で食事を

を取れる場が大切」と訴えた。さらに、子どもたちが調理に参加し、食の大切さを知る食育の場として子ども食堂を活用することを提案した。

県子どもみらい課の最上

「子どもの心身の成長のためにも、笑顔で食事を楽しめる場が必要」と語る佐藤教授＝16日、青森市

和幸課長代理は、青森市でひとり親家庭の子の学習支援や子ども食堂運営に関わってきた経験から「子どもが安心して他人とつながる

ことができる場が学習会や子ども食堂。子どもたちが自分の存在を受け止めてもらえる場でもある」と語り、子どもの視線を大切にしたい。地域づくりの重要性を強調した。

子ども食堂は、12年ごろから全国で開設され始め現在、全国に400～500カ所、本県では8カ所開設されている。以前は、貧困や孤独に悩む子どもの支援を目的にしていた食堂が多かったが、近年は、誰もが参加できるタイプが増えて

(菊合賢)